

平成27年度 学校経営計画（小学校）

I 学校教育目標

確かな学力と豊かな心を身につけた児童の育成 ～大野から志をもった若者を～

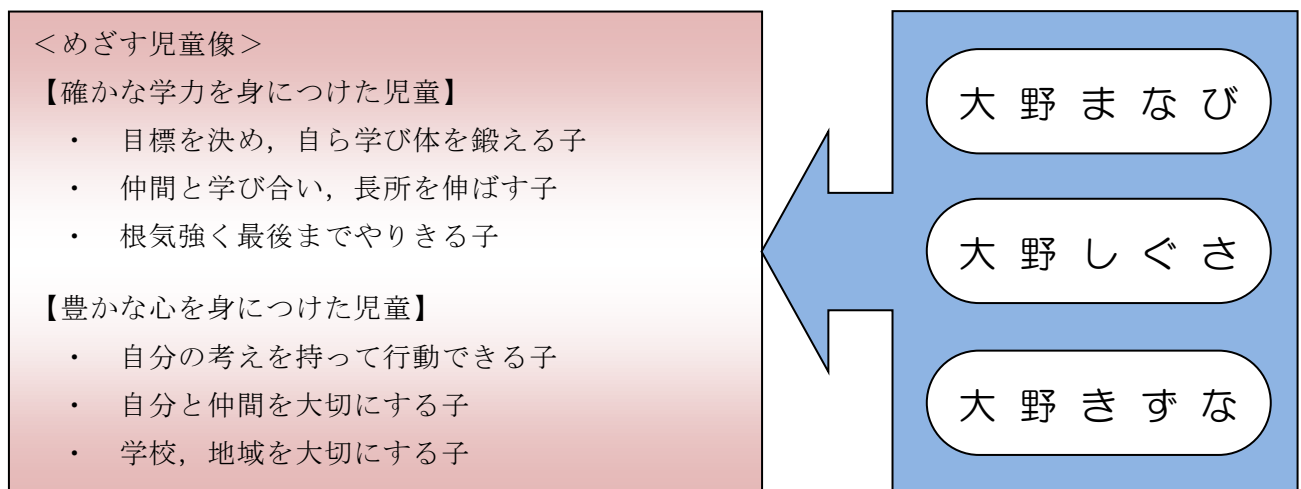
II 学校経営理念

1 ミッション(学校の使命)

地域の学校支援と小中一貫教育による地域に根ざした次世代を育成する教育活動の推進

2 ビジョン(将来の学校像)

知・徳・体のバランスのとれた児童を育み，地域に信頼され，児童が未来に向かって夢や志を語り合える学校



3 モットー（日常の行動目標・指針）

「チーム」

「自主自立」

「TEAM ⇒ Together Everyone Achieves More」

III 昨年度の成果と課題

- 「基礎・基本の徹底」については，廿日市市学力定着状況調査において，国語・算数ともに，対象学年全て全国平均値を上回った。60%以上の正答率が9割を達成したのは，3，4，5年生の算数，また，30%未満の正答率0%であったのが4年生算数であったことから，全体的に算数科の学力の定着が伺えるものの，国語科の60%以上の正答率は8割となっており，算数科を約1割下回っており，国語科における授業改善が今後の課題である。
- 「あいさつの定着」については，小中ペアクラスによる「あいさつ運動」や「あいさつチャンピオン」の表彰等により，児童自身の肯定的な評価が高まった（86%）ものの，地域による評価（65%）とは開きがあり，あいさつの日常化，習慣化には課題があるものと思われる。
- 「小中一貫教育の充実」については，学校通信等に新校舎の紹介や中学校教員による乗り入れ授業等の様子を掲載したが，保護者・地域の満足度は68.5%に留まった。実際の学校生活や行事等で小中学生が交流する場面を参観できる機会を設定するとともに，実際の学校生活の様子から，小中一貫教育のメリットについて，積極的な情報提供等を行う必要がある。

IV 学校評価計画

重要度	中期達成目標	年度達成目標	達成するための方法・手段	成果指標 (達成を見取る目安)
1	「大野まなびを」を基本にして児童の確かな学力の定着と教師の指導力の向上を図る。	教科の基礎学力が定着している。	全職員で授業研究に取り組み、授業のねらい、達成段階・指標を具体的にし、児童の到達度をしっかり把握しながら、基礎学力の確実な定着を進めていく。	各種調査問題（国・算）において、正答率が60%以上の児童を85%以上にする。 各種調査問題（国・算）において正答率が30%以下の児童を2%以下にする。
		自分なりに考え、相手に分かりやすく表現している。	わかる授業を工夫し、理解したことの定着・発展を図るとともに、自分なりに考え、表現し、交流する取組を進める。	根拠や理由を明確にして表現する児童を80%以上にする。 (児童・教職員アンケート)
2	学校生活全般で生徒指導の三機能の徹底を図り、将来に向けて意欲的な児童を育成する。	「大野まなび」, 「大野しぐさ」「大野きずな」が質的に向上している。	基本的学習習慣「大野まなび」, 基本的生活習慣「大野しぐさ」「大野きずな」に取り組み、学習や生活に仲間とともに意欲的に取り組める児童を育成する。	家庭学習時間の学年目標を達成している児童を80%以上にする。 <学年目標> 1年生…20分, 2年生…30分 3年生…40分, 4年生…50分 5年生…60分, 6年生…70分
				自己有用感の高い児童を75%以上にする。
3	中学校区の小中一貫教育の充実に努める。	保護者が大野西小学校の教育に満足している。	職員全員が参加し、小中一貫教育校に向けて組織的・計画的に取り組み、その情報を積極的に発信する。	保護者の学校満足度を85%以上にする。